

## 黒大豆障害粒の発生要因を調査・解析

平成19年産の黒大豆で裂皮粒、茶斑粒等の障害粒が多発していますが、この原因を解明するため、普及センター等の協力を得ながら調査を実施しました。各産地から、平坦地、山間地等の立地や播種時期等の異なるサンプルを持ち寄り、障害粒の発生状況、粒大や開花時期と裂皮発生との関係等を検討しました。今までの調査から、播種日が早いと裂皮粒が多いこと、標高が高いほ場では裂皮粒が少ないこと、1番花に由来する莢は裂皮粒が多いこと、大粒の方が裂皮粒が多いことなどがわかってきました。これらのことから、8～10月の高温により子実が肥大しすぎたことが裂皮粒や茶斑粒が多発した原因の一つと考えられました。また、裂皮粒では子葉の変形が多いことや、ダイズ子実汚斑病(仮称)との関連も示唆されるため、今後、さらに詳しく原因究明を進めていきます。



収穫された黒大豆

吸水させた黒大豆

正常粒（左）と障害粒（右）